

平成30年(2018年)8月1日発行

大学設立50周年記念式典・祝賀会

建学の精神に更なる生命を吹込み
新たな実工学教育を実践

日本工業大学が宮代の地に開学し、工業教育の理想を追求して50年。節目を祝う記念式典・祝賀会が6月10日、宮代キャンパスにおいて挙行された。海外提携校代表者、大学・教育関係者、自治体代表者など約500名が出席。半世紀の歩みを振り返るとともに、実工学教育への決意を新たにしました。



挨拶する柳澤理事長

本学は1967年、わが国唯一の工業高校生のための大学として埼玉県宮代町に開学。以来一貫して実践的技術教育に徹し、4万人を超える卒業生を輩出してきた。



本館前の懸垂タイトルバナー



歴史写真パネル

理事長は「全国の工業高校生に夢を与え、建学の理念によって育てられ、卒業生が技術者、教育者として我が国の存立・発展に寄与してきたことは学園の財産。これを誇りとして次の50年に向け歩みを進めていく」と述べ、「時代の変遷に対応し、建学の精神に更なる生命を吹き込むことで社会に対する本学の意義を持ち続け、工学教育における高度な実学の尊重を實踐していく」と宣言した。

成田健一学長は、式典参列や記念事業協力に対する謝辞を述べたうえで「本学を取り巻く環境の変化、社会の要求の変化に対応すべく、学部学科改組と教育カリキュラムの大幅な改編を行った。実工学教育の伝統を継承しつつ、社会変化に対応できる人材育成を目指す『継承と進化』を基本コンセプトとしている。大学は「全国的に、自らを変革する組織でなければならぬ。価値ある、選ばれる、社会に貢献する大学であり続けるため教職員一同、全力で取り組んでいく」と決意を述べた。

続いて、来賓より祝辞が贈られた(全て代読)。要旨は左記の通り。

◆文部科学省高等教育局長 義本博司氏
社会変化に対応できる実践力、人間力を備えた技術者育成に取り組んできた貴学の教育実績は社会から高く評価されている。急激な社会変化の中、貴学の強みや特色を活かした高度な人材育成が我が国の発展に大きく貢献することを期待する。

◆日本私立大学協会 会長 大沼淳氏
貴学は実工学教育の普及・発展の理念のもと、有意なる技術者を多数輩出し、社会の発展に大きく貢献してきた。今日では特色ある3学部6学科を展開する工学系総合大学として不動の地位を確立している。この節目に私立学校の今日的役割の重要性に深く思いを致し、一層の躍進を祈念する。

◆埼玉県知事 上田清司氏
貴学は地域に密着した工業大学として長きにわたる実践と研究成果を有し、県の重要なパートナーとして産官連携による先端産業の育成や地域の発展に大きく貢献してきた。今後も一層の協力を賜りたい。

当日は正門から式場まで設置された記念フラッグや赤絨毯が来賓を迎えた。式場一角に展示された歴史写真パネル前では参列者が足を止め、50年

は「全国的に、自らを変革する組織でなければならぬ。価値ある、選ばれる、社会に貢献する大学であり続けるため教職員一同、全力で取り組んでいく」と決意を述べた。

◆文部科学省高等教育局長 義本博司氏
社会変化に対応できる実践力、人間力を備えた技術者育成に取り組んできた貴学の教育実績は社会から高く評価されている。急激な社会変化の中、貴学の強みや特色を活かした高度な人材育成が我が国の発展に大きく貢献することを期待する。

◆日本私立大学協会 会長 大沼淳氏
貴学は実工学教育の普及・発展の理念のもと、有意なる技術者を多数輩出し、社会の発展に大きく貢献してきた。今日では特色ある3学部6学科を展開する工学系総合大学として不動の地位を確立している。この節目に私立学校の今日的役割の重要性に深く思いを致し、一層の躍進を祈念する。

◆埼玉県知事 上田清司氏
貴学は地域に密着した工業大学として長きにわたる実践と研究成果を有し、県の重要なパートナーとして産官連携による先端産業の育成や地域の発展に大きく貢献してきた。今後も一層の協力を賜りたい。

当日は正門から式場まで設置された記念フラッグや赤絨毯が来賓を迎えた。式場一角に展示された歴史写真パネル前では参列者が足を止め、50年

の歩みに感慨を深めた。式典終了後には、ダイニングホールにおいて祝賀会が催された。

来賓からは祝辞と記念品が贈られ、返礼として七宝飾皿が成田学長より手渡された。出席者は過去の訪問話などに花を咲かせ、親睦を深めた。

翌9日、来賓一行は本学職員の案内により東京スカイツリー、浅草寺、銀座などをバスで巡り、都内の名所を満喫した。

記念式典に先立つ6月8日、東京ガーデンパレスにおいて海外来賓歓迎レセプションが催された。式典参列のため来日した海外提携校代表者など16名(下表参照)のうち11名、提携校出身の留学生6名、本学関係者19名が出席した。

パーティーは立食形式で行われた。成田学長、柳澤理事長が挨拶に立ち、式典参列に対する謝辞を述べ、今後一層の交流発展に期待を寄せた。

来賓からは祝辞と記念品が贈られ、返礼として七宝飾皿が成田学長より手渡された。出席者は過去の訪問話などに花を咲かせ、親睦を深めた。

翌9日、来賓一行は本学職員の案内により東京スカイツリー、浅草寺、銀座などをバスで巡り、都内の名所を満喫した。



パーティーに出席した柳澤理事長(左2人目)と成田学長(右端)

海外来賓歓迎レセプション
海外来賓をおもてなし

校名/施設名	所在国	役職	氏名(敬称略)	校名/施設名	所在国	役職	氏名(敬称略)
华中科技大学	中国	副学長	許 曉東	衢州中等专业学校	中国	校長補佐	汪 群鋒
		元学長	李 培根			実習就職所主任	羅 安榮
		国際交流処 処長補佐	程 潤文			元校長	翁 孝川
キンクモンクット	タイ	学長	Sakarind Bhumiratana	中国科技大学	台湾	副校長	張 偉斌
工科大学		学長夫人	Mrs. Visakha Bhumiratana			副教授	李 東明
トンブリ校※		副学長	Pornnapi Darasawang	高苑科技大学	台湾	副学長	林 錦郎
		助教授 国際交流担当	Anak Khantachawana			応用外国語学科副主任	佐藤 健
		研究員	Supakit Amornthitpong	カナダ研修所	カナダ	所長	Phil Cann

※式典のみ参加

日本工業大学環境マネジメントシステム

17年の実績と評価を礎に

独自の環境推進活動を追

本学の環境推進活動は、2001年6月のJACOによるISO14001認証・登録からスタートし、17年が経過した。その間、本学が定めた環境方針に則り、省エネルギー活動による低炭素社会への貢献や光熱水費のコスト低減、環境教育を身につけた学生(環境人)の輩出、また、地元

宮代町を中心とした地域社会との協働など、多岐にわたる活動に取り組んできた。その結果、エコ大ランキングで「5つ星エコ大学」受賞やサステイナブルキャンパス評価(ASCC)の「ゴールド認証」など学外からも高い評価を得て、環境推進活動は成熟期を迎えた。

本学では環境マインドが十分に浸透してきたものと判断し、2018年5月26日にISO14001認証を返還。6月1日を起点に自己宣言を行い、今日までの環境活動を継承しつつ高等教育機関である大学の事業活動に添った、より進化した独自の環境推進活動を追求すべく、新たな活動「NIT-EMS」(日本

工業大学環境マネジメントシステム)を立ち上げることが環境推進委員会に決定した。

これを受け、5月31日には「NIT-EMS」の説明会が開催され、代表経営責任者の柳澤理事長から立ち上げ宣言、経緯説明等、全学への周知が行われた。

また、今後の活動について、代表環境管理責任者の竹内教授、環境管理責任者の林総務部長、環境推進事務局の原施設環境管理課長から説明があった。具体的には、文書の電子化及び電子印鑑の導入を行い業務の効率



エコキャンパスの象徴であるソーラーシステム

化を目指すこと、年間活動計画に本来業務の教育に関する活動をより多く組み込む等である。

さらに地球温暖化対策などの環境問題や、活動

から、今後の活動について、代表環境管理責任者の竹内教授、環境管理責任者の林総務部長、環境推進事務局の原施設環境管理課長から説明があった。具体的には、文書の電子化及び電子印鑑の導入を行い業務の効率

化を目指すこと、年間活動計画に本来業務の教育に関する活動をより多く組み込む等である。

さらに地球温暖化対策などの環境問題や、活動

平均気温が高かったこと

2017年度の省エネ活動は、学生・教職員の協力による省エネ活動に加え、設備改善等を行った。具体的には機械工学科棟(E1棟)・情報工学科棟(14号館)・照明器具のLED化を行い、E1棟で33.3%、14号館で22.5%の電力削減を図った。キャンパス全体としては、前年度比で電力使用量の23.6%削減を挙げたものの、都市ガスは8%の増加となった。この要因は昨年夏の



節電ポスター

2017年度の省エネ活動は、学生・教職員の協力による省エネ活動に加え、設備改善等を行った。具体的には機械工学科棟(E1棟)・情報工学科棟(14号館)・照明器具のLED化を行い、E1棟で33.3%、14号館で22.5%の電力削減を図った。キャンパス全体としては、前年度比で電力使用量の23.6%削減を挙げたものの、都市ガスは8%の増加となった。この要因は昨年夏の

2017年度の省エネ活動は、学生・教職員の協力による省エネ活動に加え、設備改善等を行った。具体的には機械工学科棟(E1棟)・情報工学科棟(14号館)・照明器具のLED化を行い、E1棟で33.3%、14号館で22.5%の電力削減を図った。キャンパス全体としては、前年度比で電力使用量の23.6%削減を挙げたものの、都市ガスは8%の増加となった。この要因は昨年夏の

「埼玉県地球温暖化対策推進条例」のCO2排出目標値が基準年比15%削減のところ、本学では20%削減を目標に掲げ以下の活動を行う。①省エネポスターの掲示②空調の中間期完全停止③外気温度による空調運転制御④棟別に6ブロックに分け30分間の内、5分間空調機遠隔停止の実施⑤クールビズの励行。併せて、設備の省エネ改善として、省エネ中長期計画

「埼玉県地球温暖化対策推進条例」のCO2排出目標値が基準年比15%削減のところ、本学では20%削減を目標に掲げ以下の活動を行う。①省エネポスターの掲示②空調の中間期完全停止③外気温度による空調運転制御④棟別に6ブロックに分け30分間の内、5分間空調機遠隔停止の実施⑤クールビズの励行。併せて、設備の省エネ改善として、省エネ中長期計画

彩の国連携力育成プロジェクト

日本学術振興会より最高評価

本学が埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学と協働して取り組んできた「彩の国連携力育成プロジェクト」が日本学術振興会による事業評価の結果、最高評価となる「S評価」を獲得した。



IPW実習を行う4大学の学生

本事業は文部科学省補助事業「大学間連携・共同教育推進事業（地域連携）」として2012年度に採択され、連携力の高い専門職育成を目的とし、本事業は4大学連携による「IPW（地域基盤型専門職連携教育）プログラム」である。共通の教育目標を設定し、IPW（複数の

専門職間連携協働）演習・実習は4大学共同授業として、IPW論とヒューマンケア論・実習は各大学の既存科目に組み込む形で実施。学生にとっては共に同じ場で学び、考え、提案しあうことで新たな知見や連携力を得ることができ、教職員は共通カリキュラムや教材の開発を通して教育の質の担保を目指すなど、この4年間で多くの成果が得られた。

こうした学際的共同研究、学生支援、広報と研究、実施体制整備による連携大学の共同した教育システムの構築に加え、医師等が参加する評価委員会の評価を受けながら大学の垣根を越えた連携教育のモデルを提示していく。

補助期間終了後も埼玉県と協働し継続

実績が「計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できた」と評価された。

第1回SMEセミナー開催

大学院技術経営研究科・教授 水澤 直哉

専門職大学院だより

去る6月16日、神田キャンパスにて、頭書セミナーを開催した。テーマは「変革の時代を拓く価値創造経営の要諦」である。22名の参加を得

る。3時間のセミナーは関連な意見交換の場となった。大きな刺激と深い洞察を得たとの感想が参加者から多く寄せられた。

企業経営が直面する変化過去の成功体験の延長線上に事業の未来を描けない変革の時代、過去の常識や成功体験こそ成長の制約条件になっている、従来の経営に対する

言えよう。

本セミナーの意義

変革の時代だからこそ

「徹底した顧客視点でのイノベーション」こそが

未来の経営展開の要である事を、私が基調講演で

ご案内した後二つの事例を通じイノベーションの

躍動を体感して頂いた。

講演1. スリーエムジャ

パン株式会社社コンシュー

マービジネス技術統轄技

術部長松本日出夫氏にご

登壇頂いた。徹底した顧

客視点での継続的なイノ

ベーションを実現し、世

界から称賛されている同

社

の

取

専門職大学院 オープンキャンパス

パネルディスカッション キャンパスツアー
説明会 模擬授業 等を予定

2018 8/25(土) 10/20(土) 12/8(土)

2019 2/2(土) ※各日とも13:00開始予定
※詳細はWEBサイト <http://mot.nit.ac.jp/>

お問い合わせ先
日本工業大学 専門職大学院
TEL.03-3511-7591 Mail: mot@kanda.nit.ac.jp



講師の堤氏

6月8日、本学工業技術博物館と後援会による春季特別講演会、第28回後援会総会が学友会館において開催された。今回は産学連携起業教育センター、NITEC埼玉産学交流会の支援を得て、後援会会員、本学幹部、教員、機械工学科の学生に加え、企業等からの参加もみられた。

特別講演会では、茨城大学教育学部特任教授の堤一郎氏を講師に招き「産業革命推進の原動力ー蒸気機関と工作機械ー」をテーマに講演が行われた。

堤氏は、まず英国の産業革命に関して、その社会的背景に続き、紡績工場から始まった状況、蒸気機関と工作機械の密接な関わり、そして可搬型高圧蒸気機関の登場に至った経緯について詳細に解説。次に日本の産業革命に移り、日本の開国と英国の国内事情が適合した背景、日本における産業革命推進の過程について説明した。続いて、日本機械学会の「技術と社会」部門の運営に長年携わってきた経験から、機械関連の遺産保存と利活用が必要

性、国による文化財指定と学術団体による認定について語った。総会では高山後援会長が議長を務め、後援会の2017年度の事業・決算報告、2018年度の事業・予算案が審議され、原案通り承認された。

その後開催された懇親会では、堤一郎講師の出席も得て、なごやかな懇談が持たれた。

工業技術博物館と後援会 特別講演会・総会を開催

就職支援情報

Uターン、インターシップの説明会を実施

本学では6月、岩手県と「就職支援の協定」を締結した。福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、長野県に次いで7県目となる。この背景には「地方創生」に関わる国策としての側面があるが、なによりもU・Iターンを希望する学生への就職支援の充実が狙いである。

本学では先の7県以外に、多くの学生の出身である青森県、秋田県、宮城県、山形県、静岡県、山梨県の自治体にも協力を依頼し、13県における「U・Iターン就職情報提供支援」を全学年、全学科を対象に毎年7月に実施している。県の魅力から始まり、就職求人情報サイトの提供、さらに奨学金や地元での就職活動に関わる交通費の助成等の情報も紹介する。U・Iターンを希望する学生は、この機会を有効に利用してほしい。

岩手県との協定締結式

保護者のための 就職相談会

対象 学部4年生、大学院2年生の未内定学生の保護者
日時 2018年10月6日(土) 9:00~16:00
場所 日本工業大学 就職支援課
対象の皆様には、9月上旬にご案内をお送りいたします
お問い合わせ先
日本工業大学 就職支援課
TEL:0480-33-7510 FAX:0480-33-7562
E-mail: syusyokuka@nit.ac.jp

コンテストの参加者を募集中!

第10回3D-CADプロダクトデザインコンテスト



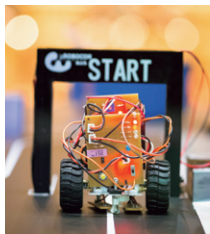
作品送付 締切 9/10 結果発表 表彰式 10/28

3次元CADを駆使し、斬新かつ独創的なアイデアをコンピュータ上で表現してください。対象は高校生で、テーマ、CG、自由の3部門。優秀作品は加工して展示後、お渡しします。

作品送付先/お問い合わせ先

3D-CAD プロダクトデザインコンテスト事務局 長坂保美
TEL:0480-33-7619 E-mail: nagasaka@nit.ac.jp
<https://2c-laboratory.sakura.ne.jp/pdcontest/>

第12回 マイクロロボコン高校生大会



申込 締切 10/31 開催日 12/22

約1インチサイズ、名刺サイズの小型ロボットによるライントレース競技です。初心者でも競技参加しやすいようノビス部門も設置しています。全員完走を目標に、今夏も学内外で講習会を実施します。

エントリー/お問い合わせ先

先進工学部ロボティクス学科 秋元俊成
TEL:0480-33-7716(学科事務室) E-mail: akimoto@nit.ac.jp
<http://ise.nit.ac.jp/mrc.html>(エントリーはHPから)

第32回 建築設計競技



提出期限 8/31 入賞発表 9月上旬

建築を学ぶ高校生を対象とした建築設計の腕試しの場として、また本学建築学科の設計教育活動の一環として、毎年開催しています。今回の課題は「4匹目の子ぶたの家」です。

作品送付先/お問い合わせ先

建築設計競技委員会
TEL:0480-33-7681 E-mail: kenchiku-compe@nit.ac.jp
<http://nit-kenchiku.jp/activities/>

本学卒業教職員の集い

新学習指導要領について協議
講演会「地域連携で学んだこと」

「本学卒業教職員の集い」(実行委員長・守屋文俊都立練馬工業高等学校統括校長)は6月9日、本学機械実工学教育センター、学友会館ホール他で開催された。全国の中学・高校等で教鞭をとる本学卒業の現職教員48名と来賓、本学教職員・学生52名を含む100名以上が出席した。

開会行事では実行委員長及び成田学長が挨拶。次いで「新学習指導要領



グループ協議

に対する各校の取り組み状況」をテーマにグループ協議が行われた。高等学校新学習指導要領が3月末に告示されたことを受け、今回の改訂のポイントについて本学工業教育研究所長の渡辺勉教授が説明。参加校の代表者からは、各校の取組み状況について発表が行われた。

続いて学友会館に場所を移し、「地域連携で学んだこと」を題目に講演

が行われた。講師には建築学科OB(1999年卒)で、現在京都府立宮津高等学校建築科長を務める小谷保雄教諭が招かれた。同校は工業高校からの学校改編に伴い、普通科と建築科を併設した結果、既存の建築科の志願倍率が低迷する事態に陥ったが、その対応について小谷教諭が説明。地域の落書き落とし、地域産業の担い手育成事業への取り組み、東日本震災の復興支援などの実績を重ね、各種メディアに採り上げられたことで、応募倍率をV字回復させた。

スチューデントホールで開催された懇親会では、工友会総会参加者を交え、情報交換が活発に行われた。来年度以降も引き続き、工友会と合同で開催予定である。

高大連携 高校生・大学生交流会

大学での実体験を紹介

千葉県工業系高大連携推進委員会、千葉県高等学校教育研究会工業部会の主催による「高大連携の進路(希望)などについて、各大学の特色を踏まえた大学紹介と共に体験発表すること、高校生の進路選択の一助となること」である。

今回の、本学から創造シ

ステム工学科3年の増大河さん、電気電子工学科2年の小橋川ケイジさんの2名が参加。各々が大学入学前に抱いた期待や不安、入学後に感じたこと、授業への取組み、課外活動、興味のある研究テーマ等について実体験を通じた発表を行った。

高校生からは、授業で苦労した事や、学生生活等について多くの質問があり、学生は丁寧に説明していた。



高校生の質問に対応する学生

発表した学生は「発表会を通じて、今までの振り返りができた。入学当初の気持ち悪い出し、今後に繋げたい」との抱負を述べた。

新学部学科説明会を開催
全国81校・82名の教諭が参加

5月25日、昨年に続き、高等学校教諭を対象とした新学部学科説明会がLCセンター1階マルチメディア教室において開催された。今年は近隣の高等学校のみならず、北は青森県から南は徳島県まで、昨年を上回る合計81校、82名の高等学校教諭が参加した。

成田学長の挨拶に続き、辻村教務部長、大橋教務部長補佐、佐藤共通教育学群長が「これから

ライブラリカフェ



6月6日、LCセンターにて第11回ライブラリカフェが開催された。今回は機械工学科の細田彰一先生を迎え「アニメ・SFデザインよもやま話」と題した講演の後、カフェタイムでは先生を囲んで“マニア話”を楽しんだ。学生には身近なテーマということもあり、トーク、カフェともに大いに盛り上がった。

2019年度入試概要

・各入試の詳細は、それぞれの「募集要項」でご確認ください。 ・エントリー、申込、出願等にあたっては、締切日必着とします。

入試名称		併願の可否	内 容	日 程				
特別奨学生入試	単 願		奨学生には、 1年目の授業料の全額（98万円） または半額（49万円） を免除 ・書類審査および面接による選考 ・特待生制度あり	申込期間	9/10(月)～ 9/20(木)			
				面接日と面接会場	9/29(土) 本学			
				内定日	10/ 4(木)			
				出願期間	10/ 5(金)～10/15(月)			
				合格発表日	10/25(木)			
				入学手続 締切日	第1回 11/ 6(火) 第2回 1/22(火)			
一般入試	併願可		・一般入試Aで各学科・コースの成績上位（合格者の5％）に1年目の授業料 全額（98万円）または半額（49万円）を免除 ・筆記試験および調査書による選考 ・試験教科・科目は、一般入試Aは数学・理科（物理、化学、生物から1科目を選択）・外国語（英語）の3教科。 一般入試Bは2教科を選択。	一般入試A				
				出願期間	1/ 7(月)～ 1/21(月) インターネット出願は12/20(木)から利用開始 本学会場のみ1/22(火)も窓口受付	2/ 2(土)～ 2/15(金)		
				試験 日	1/29(火) 本学・東京・郡山・高崎 柏・横浜・名古屋 1/30(水) 本学・東京・水戸・宇都宮 千葉・長野・静岡 1/31(木) 本学・東京・仙台・新潟 2/ 1(金) 本学・東京	2/21(木) 本学・東京		
				合格発表日	2/ 8(金)16:00	3/ 1(金)16:00		
				入学手続締切日	2/19(火)	3/12(火)		
センター利用入試	併願可		・平成31年度大学入試センター試験で、本学が指定する教科・科目の成績および調査書による選考 ・検定料割引制度あり	センター利用入試A		センター利用入試B	センター利用入試C	
				出願期間	1/ 7(月)～ 1/28(月) インターネット出願は12/20(木)から利用開始	2/ 2(土)～ 2/15(金)	2/23(土)～ 3/12(火)	
				センター試験実施日	1/19(土)・20(日)※本学での個別学力試験等は実施いたしません			
				合格発表日	2/ 8(金)16:00	3/ 1(金)16:00	3/18(月)16:00	
				入学手続締切日	2/19(火)	3/12(火)	3/25(月)	
一般推薦入試 (公募制)	併願可		・書類審査および面接による選考 ・専門高校（工業科）以外の生徒が対象 ・公募制	第1期		第2期		
				出願期間	11/ 1(木)～11/ 8(木)	12/ 1(土)～12/10(月)		
				面接日と面接会場	11/17(土) 本学	12/15(土) 本学		
				合格発表日	11/29(木)	12/20(木)		
				入学手続 締切日	第1回 12/13(木) 第2回 1/22(火)	1/22(火)		
専門高校入試 (S 工業科)	併願可		・書類審査および面接による選考 ・工業科生徒が対象 ・国公立大学等との併願に最適	申込期間	9/10(月)～ 9/20(木)			
				面接日と面接会場	9/29(土) 本学			
				内定日	10/ 4(木)			
				出願期間	10/ 5(金)～10/15(月)			
				合格発表日	10/25(木)			
専門高校入試 (B 工業科)	併願可		・書類審査および面接による選考 ・工業科生徒が対象 ・公募制	第1期		第2期		
				出願期間	11/ 1(木)～11/ 8(木)	12/ 1(土)～12/10(月)		
				面接日と面接会場	11/17(土) 本学	12/15(土) 本学		
				合格発表日	11/29(木)	12/20(木)		
				入学手続 締切日	第1回 12/13(木) 第2回 1/22(火)	1/22(火)		
AO入試	併願可		AOエントリー入試 ・適性評価（面談、提出課題）および書類審査（エントリーシート、調査書）による選考 AOコーディネータ入試 ・書類審査および面接による選考	第1期		第2期		第3期
				AO エントリー 入試	エントリー期間 9/ 1(土)～ 9/ 9(日) 面談日 第1回:9/13(木)～ 9/15(土) 内定日 第2回:9/27(木)～ 9/29(土)	11/ 1(木)～11/12(月) 第1回:11/17(土) 第2回:12/ 1(土)	1/25(金)～ 2/22(金) エントリー受付後に連絡 3/ 7(木)まで	
				コーディネータ入試の申込期間	9/ 1(土)～ 2019/ 2/19(火)まで、随時受付			
				出願期間	10/ 5(金)～10/15(月)	12/ 4(火)～12/11(火)	2/23(土)～ 3/12(火)	
				選考	書 類 審 査 等			
AOコーディネータ 入試	併願可			合格発表日	10/25(木)	12/20(木)	3/18(月)16:00	
				入学手続 締切日	第1回 11/ 6(火) 第2回 1/22(火)	1/22(火)	3/25(月)	
				出願期間	3/ 4(月)～ 3/12(火)			
				面接日と面接会場	3/14(木) 本学			
				合格発表日	3/18(月)16:00			
3月入試	併願可		・書類審査、面接および小論文による選考	入学手続締切日	3/25(月)			
				出願期間	3/ 4(月)～ 3/12(火)			
				面接日と面接会場	3/14(木) 本学			
				合格発表日	3/18(月)16:00			
				入学手続締切日	3/25(月)			

・専門高校入試 (A 工業科) および一般推薦入試 (指定校) については、2019受験ガイドおよび募集要項をご確認ください。
・お問い合わせ先: 入試室 TEL 0120-250-267

オープンキャンパス

6月3日、オープンキャンパスが開催された。当日は、大勢の高校生や保護者の方が参加。2018年4月からスタートした新学部学科の紹介や授業体験、個別進路相談会、保護者説明会、女子向けプログラムなどが好評だった。



新学部・学科オープンキャンパス

8/4(土)・5(日)
8/25(土) 9/9(日)

■各開催日とも11時開始(ランチ付き) ■無料バスを運行
■事前に申し込まれた方にプレゼントを差し上げます

お問い合わせ・お申込み先: 日本工業大学 教務部入試室
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
☎0120-250-267 E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp
URL: www.nit.ac.jp

詳細は本学 WEB サイトをご覧ください

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集
(日本工業大学大学院 社会人特別選抜)

◆大学院工学研究科 (博士前期課程・博士後期課程)

＊環境共生システム学専攻 ＊機械システム工学専攻
＊電子情報メディア工学専攻 ＊建築デザイン学専攻

■平成31年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

	日 程			
	出願期間	面接試験	合格発表	手続締切
一次募集	平成30年9月21日～9月25日	10月 4日	10月13日	平成31年1月25日
二次募集	平成31年2月13日～2月20日	2月27日	3月 6日	平成31年3月11日

お問合せ先: 教務部教務課 大学院入試係
TEL 0480-33-7507 URL http://www.nit.ac.jp

情報工学科の学生が小学生にプログラミング指導

5月27日、埼玉県久喜市の大型商業施設「モリジュ葛浦」において、本学情報工学科とGPリーグ実行委員会による小学生対象イベント「3つのプログラミングであそぼう！」が開催された。GPリーグとは、プログラミング知識・技術をスポーツ形式で競い合わせ、子どもたちの自由な興味・関心や能力に合った「未来の学び」を実現する試みである。

イベント当日は情報工学科3・4年の学生約20名がプログラミング指導や記録撮影などを担当。子供たちが楽しく学べる



学生の指導を受けながらマイクラフトを体験

イベントの中心となるワークショップは定員24名で7回実施された。「体を動かしてプログラム概念を知る」「マイクラフト」「オゾロボット（小型ロボット）」の3テーマが用意され、小学生と保護者が順に体験した。各回とも整理券配布が1時間前

に終了となるほどの盛況で、プログラミング教育への関心の高さが窺えた。今後は本学オリジナルプログラムによるワークショップ開催を目指している。

日本機械学会若手優秀講演フェロー賞

機械システム工学専攻2年（櫛橋研究室）の細谷拓実さんが6月4日、日本機械学会の若手優秀講演フェロー賞を受賞した。受賞論文名は「プロジェクションマッピングを用いた機構学教材の開発」。



機械を動かす仕組みを学ぶ機構学の授業では、力の伝達を理解するため模型や動画が利用されている。本研究では立体物への映像投影技術を応用し、各機構に働く力を模型に投影して可視化する教材を開発。教室のプロジェクトクタ設備を利用し、模型を動かしながら力の変化を双方向的に学ぶことができる。実物を見ながら教室全体での同時学習が可能となり、学習効果の向上が期待される。

留学生交流ツアー・交流会



鎌倉大仏前で記念写真

本学在籍の外国人留学生を対象とした研修ツアーが5月26・27日に実施された。日本の歴史や文化への興味喚起を目的とした毎年恒例の行事で、今年は鎌倉、江ノ島方面へ向かった。事前研修として5月11日、学内で鎌倉幕府や鎌倉大仏

ことを目的としている。参加学生は約100名を数え、大学からは学長、学生支援部長をはじめとする教職員、地元宮代町のボランティア団体「国際交流みやしろ」から数名が参加。和やかな雰囲気の中、親睦を深めた。

宮代会総会

会長に廣瀬氏が就任

7月7日午後3時より、富山県宇奈月温泉にある「延楽」にて宮代会の総会が開催された。

当日は、全国から29名の会員が参加。議事は、慎重審議の上、全て了承された。会長には廣瀬修氏（第40代後援会長・神奈川）の就任が決定した。



工友会定時総会 事業計画案、予算案など承認

6月9日、一般社団法人日本工業大学工友会定時総会が学友会館において開催された。当日は、全国から代議員42名、理事11名、監事3名が出席。本学からは来賓として柳澤理事長、成田学長が挨拶に立ち、日頃の活動に対する謝辞が述べられた。

議事は2017年度事業・収支報告、2018年度事業計画案・収支予算案について審議され、全議案が承認された。また、報告事項として、監事報告、2018年度地域支部・学科支部代議員が報告された。

地域別教育懇談会開催日程

開催日	支部名	会場	対象地域
9/8(土)	山梨県	笛吹市/ホテル春日居	山梨県
〃	長野県	長野市/ホテル信濃路	長野県
9/9(日)	本部 (北海道)	札幌市/札幌ガーデンパレス	北海道
〃	本部 (四国)	高知市/高知共済会館	四国
〃	本部 (九州)	福岡市/デュークスホテル博多	九州
9/15(土)	青森県	青森市/ラ・プラス青い森	青森県
〃	福島県	郡山市/清陵山倶楽部	福島県
〃	茨城県	土浦市/ホテルマロウド筑波	茨城県
〃	北陸	富山市/富山電気ビルディング	富山県・石川県・福井県
〃	静岡県	静岡市/男女共同参画センターあざれあ	静岡県
9/16(日)	栃木県	宇都宮市/ホテル丸治	栃木県
〃	近畿	尼崎市/ホテルヴィスキオ尼崎	大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県・滋賀県
9/22(土)	蔵王	山形市/悠湯の郷 ゆさ	山形県・宮城県
9/23(日)	秋田県	秋田市/秋田温泉さとみ	秋田県
〃	群馬県	高崎市/ホテルグランビュー高崎	群馬県
9/29(土)	岩手県	花巻市/紅葉館	岩手県
〃	新潟県	長岡市/長岡グランドホテル	新潟県
〃	千葉県	千葉市/バーディーホテル千葉	千葉県
〃	沖縄県	那覇市/沖縄県青年会館	沖縄県
10/7(日)	本部 (近県)	大学	東京都・埼玉県・神奈川県
10/13(土)	西中国 東中国	岡山市/サンビーチOKAYAMA	広島県・山口県・島根県・岡山県・鳥取県
未定	東海		愛知県・岐阜県・三重県

※日程および会場は変更になる場合があります。詳細はご自宅に送付される案内をご覧ください。

人事異動

【配置換】（7月1日付）
●古澤雅仁施設環境管理課主任→教務課主任に異動
【解任】（6月30日付）
●村上隆之ⅠR室長補佐・教務課長補佐兼務→教務課長補佐兼務解任
【退職】（6月30日付）
●永野由佳教務課員

国外出張

●西本真一教授（建築学科）／出張先Ⅱエジプト（5/35/9）／目的Ⅱ第4回大エジプト博物館国際タンカーメン会議での研究発表
●二ノ宮進一教授（機械工学科）／出張先Ⅱイタリア（6/5/6/10）／目的Ⅱ国際精密工学会euspen2018での研究発表
●加藤史仁准教授（機械工学科）／出張先Ⅱアメリカ（6/11/6/17）／目的Ⅱバイオセンサに関する国際会議での研究発表
●島塚潔講師（共通教育学群）／出張先Ⅱ韓国（7/17/7/5）／目的Ⅱ合成金属の科学と技術に関する国際会議ICS M2018での研究発表
●黒津高行教授（建築学科）／出張先Ⅱネパール（7/7/7/12）／目的Ⅱハヌマンド力王宮内における現地調査
●野口憲治助手（建築学科）／出張先Ⅱネパール（7/7/7/13）／目的Ⅱネパール国ゴルカ地震による建築資産の被災状況緊急調査と救済対策（第4次）
●大宮望准教授（情報メディア工学科）／出張先Ⅱインドネシア（7/8/7/7）／目的Ⅱ第18回物流に関する国際会議での研究発表
●生駒哲一教授（電気電子通信工学科）／出張先Ⅱイギリス（7/10/7/15）／目的Ⅱ第21回情報融合に関する国際会議（Fusion2018）での研究発表
●劉雯准教授（共通教育学群）／出張先Ⅱ台湾（7/20/7/23）／目的Ⅱ平成30年度日本留学フェア参加のため
●雨宮隆教授（ものづくり環境学科）／出張先Ⅱインドネシア（7/29/8/4）／目的Ⅱアジアバイオマス科学会議及び国際バイオマス会議での研究発表
●河住有希子准教授（共通教育学群）／出張先Ⅱイタリア（8/2/8/6）／目的Ⅱヴェネツィア2018年日本語教育国際会議での研究発表

国内出張

●木村貴幸准教授（電気電子通信工学科）／出張先Ⅱアメリカ（8/5/8/11）／目的Ⅱ2018年非線形ダイナミクスの応用に関する国際会議での研究発表
●丹治明講師（機械工学科）／出張先Ⅱ台湾（8/15/8/17）／目的Ⅱ近代化遺産関連保存と推動研究の国際シンポジウム及び交流活動
●加藤史仁准教授（機械工学科）／出張先Ⅱ韓国（8/19/8/22）／目的Ⅱ機械工学に関する国際会議での研究発表
●衛藤和文教授（共通教育学群）／出張先Ⅱイタリア（9/1/9/8）／目的ⅡⅡ半群に関する国際会議Ⅱ NDA meeting における研究発表
●神林靖准教授（情報メディア工学科）／出張先Ⅱイギリス（9/4/9/9）／目的Ⅱ第10回計算群知能国際会議での研究発表
●神林靖准教授（情報メディア工学科）／出張先Ⅱフランス（10/24/10/29）／目的Ⅱ第1回人間システム工学と設計国際会議での研究発表

編集後記

▼盂蘭盆会（うらぼんえ）、別名「盆」とも呼ばれる行事のことだ。この号が発行されるのが8月1日。この機会に來歴を紹介したい。▼旧暦の7月13日から15日にかけて行われる先祖の霊を祭る行事であることは周知の事実だろう。月遅れの8月15日に行う地方もある。▼「盂蘭盆会」はサンスクリット語の「ウラハナ」の音訳である。餓鬼道Ⅱ常に飢えと渇きに苦しむ亡者の世界Ⅱに落ちた死者を供養する意味があるという。▼先祖の霊を迎えて祭ることは正月の行事と同じだ。ただ、現在、正月は神道的に、お盆は仏教的に行われている▼盂蘭盆会の行事が日本の朝廷で執り行われたのは606年7月15日といわれている。今から千四百年も前の推古天皇の時代だから、歴史は古い▼その後、正式な宮廷の行事となり、民間の行事として拡がりをみせた。地域によって行事の内容が異なることも興味深い【信】

宮代町だより 214号



第35回 宮代町民まつり

8月25日、26日の2日間、進修館周辺で、第35回宮代町民まつりが開催されます。例年、日本工業大学の皆さんがボランティアとして実行委員会に参加し、イベントの企画運営や広報記録、当日の安全美化活動と幅広いジャンルで活躍いただいています。昼から夜まで、子どもから大人まで、一日中楽しめるイベントが盛りだくさん。見るだけでなく、ぜひ参加し、夏休みのいい思い出をつくらせてはどうですか。詳細は、8月より配布するパンフレットをご覧ください。

本日は日本工業大学設立50周年に当たり、文部科学省をはじめ、日本私立大学協会、埼玉県など多数のご来賓のご臨席を仰ぎ、そして学園、大学関係の多数の皆様のご列席のもと、かくも盛大に記念式典を挙行できますことは、まさに本大学、学園にとって名誉なことであり、心より御礼申し上げる次第であります。

顧みますと、本学が設立された昭和42年、1967年は、学園として創立60周年でありました。従いまして、この大学設立50周年は、学園としては110周年となるわけであります。

さて、現在、わが国には、4年制私立大学の数は、およそ600有余であり、それらは、その設立の時期によって、およそ4つの世代に分類することができるとのことでございます。すなわち、高等教育

する、理想を追求するという、学園設立関係者の止むにやまれぬ熱情がその源泉になっている、と云うことでもあります。

本学は設立時、機械工学科、電気工学科、建築学科の3学科、1学科の定員80名、1学年240名でスタートしました。

開学時、全国の工業高校から俊英たちが、ある者は地方の若者の質朴と骨太さを、ある者は都会の知識と洗練さを、そして一様に高校時代の技術学習歴をもって入学してきたのであります。ここに、まさに、全国の工業高校の念願であった、工業高校生の大学進学

の隘路を打破する大学を、そして、ドイツ流ともいえる高等教育入学前に、技術実務経験を求めるという我が学園の理念を実現する大学が設立されたのであります。



技術教育の理想を追求し 次の50年へ、歩みを進める



理事長
柳澤 章

の大拡張期以前、それは昭和35年以前であります。その時期にすでに存在していた大学が第1世代、そして、昭和35年から昭和49年までの、高等教育大拡張期に設立された大学が第2世代、さらに、昭和50年以降、大拡張期以降に設立された大学が第3世代、そして、近年の1998年、平成10年以降も毎年10校以上の大学の新增設が続いており、それらが第4世代に分類されるのであります。

したがって、この分類によりますと、本学はまさに、第2世代、高等教育大拡張期に、多くの仲間と共

に生まれた大学と言えるのであります。しかし、私共が誇りをもって明確に申し上げることが出来ますことは、本学の設立は、学園の規模的な発展膨張という、ある意味、時代の流れに乗った動きではなく、当時の技術教育に対して、一石を投

ずる、理想を追求するという、学園設立関係者の止むにやまれぬ熱情がその源泉になっている、と云うことでもあります。

開学時、全国の工業高校から俊英たちが、ある者は地方の若者の質朴と骨太さを、ある者は都会の知識と洗練さを、そして一様に高校時代の技術学習歴をもって入学してきたのであります。ここに、まさに、全国の工業高校の念願であった、工業高校生の大学進学



理事長
柳澤 章

当時の学生の中には、いわば飯の食えるほどの技術実務能力を持ち、教授陣と対等に議論し、また実験実習でその鍛えた技能を披露し、国立大学から着任した教員を驚かせたという話も多く聞かれたのであります。

開学から30数年の間、本学はまさに建学の理念を顕現し、結果させて行ったのであります。その間、大学として規模的にも順調な歩みを続け、昭和50年

システム工学科設置、昭和57年大学院工学研究科修士課程設置、平成7年情報工学科の設置等々、1学年1000名、収容定員4000名、そして大学院博士課程、専門職大学院をも擁する大学へと発展を遂げたのであります。

しかしながら、近年、特に本学の50年の歩みの中で申し上げるとすれば、特に、この10年の間、社会

状況、そして大学教育を取り巻く状況は大きく変化し、いわゆる社会全体を覆う少子高齢化と、大学受験層である18歳人口の急激な減少、そして、それに反する大学数の増加という状況の中、国公立大学の工業高校生の受け入れが象徴的に示すように、工業高校生の大学進学環境の変化、そして、何よりも全国の工業高校が技術を志向する有能な若者を、必ずしも吸引しきれないという現実によって、本学の建学の理念、教育の理念も、その再定義、再確認を求められていることを、率直な認識として申し上げます。を得ないのであります。

しかし、現今の状況に拘らず、先ず第一に、私たちは建学の理念を掲げ、日本の技術教育に一石を投じ、大学設立から今日まで、確固たる成果を生んで参りました我が大学の歩み、その足跡に万感の思いを持って敬意を表し、誇りとするものであります。



理事長
柳澤 章

我が大学の存在が全国の工業高校生に夢を与え、そして、建学の理念によって育てられ、それを体現した卒業生諸君が、技術者として、教育者として、我が国の存立、発展に寄与し、まさに一時代を画して来たことは、何人も消し去る事の出来ない学園の財産とも言えるものであります。我々、日本工業大学教職員、学生、そして卒業生、学園関係者あげて、この事を胸に刻み、誇りとして、次の50年に向けて歩みを進めて参る所存であります。

そして、つぎに、この大学設立50周年を機に申し上げたき事は、建学の理念に新たな生命を吹き込み、力強い歩みを続けることをここに高らかに宣言するという事であります。当然の事ながら「建学の精神が反映されない私立大学は私立大学ではない」と言うことができません。しかし、いつの時代であろうとも、時は移り、社会状況の変化は、留めること

はできないのであります。建学の精神といえども、そこに変化、成長が求められる事は自明の理であります。その時、必要となるのは、時代の変遷に対して、建学の精神に更なる生命を吹き込み、社会に對しその意義を持ち続けられるか否かであります。厳しく申し上げれば、意義を見出し得ない大学は退場をよぎなくされることも申すことができるのであります。

継続実践して参る覚悟でございます。

設立50周年を迎えた今日、私共大学関係者は、設立時の本キャンパスの姿を思い起こさずにはいられません。田圃を埋め立てた土地にポツンと立つ一棟だけの本館、それを取り巻く幾棟かの実験棟、宮代砂漠と言われたグラウンド、大学から駅まで商店はまったくありませんでした。今、キャンパスの充実ぶりを見ると、本大学がこれまで来られたのも、寢食を忘れて努力された学園先輩方、50年の歴史を紡いでこられた教職員の方々、我々とスクラムを組んで頑張ってくれた全卒業生学生諸君、そして、我が子より熱くなっていたいた御父母、後援会の皆様、近隣地元の方々、そしてご指導いただいた関係諸機関の方々、ここに学園を代表し、すべての皆様

に感謝、御礼申し上げ、日本工業大学設立50周年記念式典の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございました。

平成30年6月10日

日本工業大学 理事長 柳澤 章
※ 濱中義隆「私立大学の類型と学生規模の変容」
現代の高等教育（No.584）



開学当時(1969年)のキャンパス



現在(2018年)のキャンパス

本日ここに、日本工業大学設立50周年記念式典を、多くのご来賓や本学関係者の皆様のご臨席のもと、執り行うことができますことは、本学にとりまして誠に光栄なことであり、ご多用中にもかかわらず、ご臨席賜りました皆様に、日本工業大学を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。本学が50年の節目を迎えることができましたのは、50年のそれぞれの時期における皆様や先人の方々のご尽力の積み重ねによるものでございます。この場をお借りし、衷心より感謝と敬意を表する次第でございます。また、今回の新講義棟の建設をはじめとする周年記念事業に対しましては、趣旨に賛同頂き、皆様から厚いご支援ならびにご寄付を賜りました。重ねて、御礼申し上げます。

本学は、理事長の挨拶にもありましたように、全国の工業高校の念願であった、工業高校生の大学進

には、体験的な学びを工業高校の後輩たちの教育に還元したいと、教職を目指す学生が多く含まれています。その結果、全国の工業高校で、900名を超える、多くの本学出身の教諭が今も教鞭をとっています。これは、本学の大きな財産であります。教員の指導で努力するのではなく、自ら夢中になってトコトン課題に取り組む、それを社会に還元する。これこそが本学の学生気質であり、培ってきた良き伝統であります。

私が本学に奉職したのは、ちょうど設立30周年を迎えた平成9年であります。当時は入学生の9割が工業高校出身者で、工業科向けの「一般入試」を行っていました。数学・英語各100点、機械・電気・建築などの選択専門科目が200点という配点でした。建築学科に着任して早々に携わったのが、この専門科目の問題作成であり、「建築計画」など初め

代表されるIT技術が全ての産業に浸透する知的集約化社会、Society 5.0に対応する人材、21世紀型スキルを備えた人材を、学士課程でいかに育成するかということです。本学は、工業科中心から普通科への学生層の広がりや合わせ、二重の意味で急速な変化に晒され、対応を迫られています。

このような変化を受け止め、新しい時代に立ち向かうべく、次の半世紀のスタートとなる今年、日本工業大学は学部・学科改組と大幅な教育カリキュラムの改編を行いました。今回の改組では、「実工学教育」という伝統を継承しつつ、これからの社会の変化にも適応できる人材を育成するために本学が進化すること、『継承と進化』を基本コンセプトといたしました。ディプロマポリシーでは「現場で創意工夫できる技術者、技術で新たな価値を創造できる人材」の育成を謳いました。前者の「現場で創意工

いきます。このような「俯瞰力」に加え、今社会から求められているのは、「変化に対応する力」「自ら考え続ける力」そしてコミュニケーションの基礎となる相手の立場を理解する「想像力」、相手の想いを感じ取る「感受性」です。今回の改革では、まだまだ十分ではありませんが、これらの力を身に付けさせることにも注力致しました。

このような、いわゆる「市民」として、「人」としての素養を身に付けさせることは、文部科学省がすすめてきた大学改革実行プラン、学士課程教育の質的転換の中でも強調されている課題です。TeachingからLearningへのシフト、アクティブ・ラーニングやポートフォリオなどの教育方法や教育ツールの導入が、各大学に今求められています。これらの多くは、本学では今まさに継続的な課題として取り組んでいるところです。

社会の要求も変化している今、学生気質の急速な変化に直面し、本学にとって本当に必要な教育とは何なのか。今回の改革では、この本質的な問いを真剣に考えました。管見ながら私が得た結論は、「目の前の学生に真摯に向き合うことからしか答えは見つからない」と言うことです。教育に「万能の処方箋」はありません。目の前の学生に今何が必要かを適確に判断し、それを実行すること。それができる

よう教員の力量を磨くこと、それ以上も、それ以下もない。教育は、学生と教員が互いに学び合う「双方向のプロセス」です。「学ぶ心」にスイッチを入れるのが教員の最大の使命であり、そのために必要な最も新鮮で多様な素材を提供してくれるのは目の前の学生です。教員は自らが受けた教育以上の教育観は持ちえません。そのことを自覚し、自らの経験にとらわれずに学生の実態を直視し、授業改善とスキルアップの努力をしなければなりません。教員自身が不断の改善の必要性を認識するとともに、自ら主体的に教育内容を見直し、教育方法を学び、実践するような環境を整えていく、これが教育の課題であります。教員自身の問い続ける姿勢こそが教育を豊かにする、そのことを全学で共有していきたいと思

います。

さらに、大学という組織は、社会との開かれた対話を通じて「自律的に、自らを、変革する」組織でなければなりません。学生に対して「変化に対応する」「自ら考え続ける」を求める前に、大学自身が



学生に真摯に向き合い 内発的な大学改革を実行



学 長 健 一
成 田

学の隘路を打破するという関係者の熱い想いと、当時の我が国の技術教育に二石を投じるといふ高い志から生まれた大学であります。当時は約60万人の生徒が全国の工業高校で学んでいました。本学は、その中から、さらなる学びを志す優秀な進学希望者を集め、入学直後から高いレベルの実験実習、製図課題などの教育カリキュラムを提供し、工業立国として発展する日本を支える多くの実践的技術者を世に輩出してきました。この長い伝統の中で工夫を重ね、切磋琢磨して確立された「実工学の学び」は、体験しながら理論を学び理解を深化させていく「デュアル・システム」として今も息づいています。それを支えてきた実習用の設備・装置の数々は、今なお他の工業大学を圧倒する本学の大きな資産となっています。工業高校で学びの楽しさと喜びを感じ、自らの専門性をさらに高めたいという明確な学びの目標を持った学生が本学に集まってきています。その中

て見る工業高校の教科書と格闘したのを覚えています。また、その後導入したAO入試では、模型製作や、デッサン実習、実物の椅子をその場で測量しながら図面化する作図など、工業科での学びを活かす入試を工夫してきました。建築学科以外でも、各学科が創意工夫にあふれた課題を考案し、今思い起こせば、昨今の入試改革で議論されている方向性を先取りした、先進的な取り組みであったと再評価できると感じています。

さて、その後20年という時を経て、本学を取り巻く環境は大きく変化しました。工業高校の生徒数は、現在約25万人と大学設立時の4割に減少しています。この春の本学への入学生の工業科出身者の比率は39%で、すでに普通科出身者数が工業科出身者数を上回っています。あわせて、今全国の大学で課題となっているのは、AIやIoT、ビッグデータに

夫できる技術者」は、これまで培ってきた本学の伝統を踏まえ、それを「継承」という宣言であり、後者の「技術で新たな価値を創造できる人材」は、変化への対応とイノベーションを意識した『進化』することの宣言であります。新しいカリキュラム、特に工学基礎教育プログラムでは、学生がトコトンやり抜く環境を創りだし、同時に、学修支援センターなどの学びのセーフティネットも充実させ、わかるまで教えるという覚悟も教職員に共有してもらいました。

本学は「実工学」を標榜しています。「実学」とは一言でいえば「役に立つ学問」と解されますが、役に立つかどうかの判断には、必ず価値観が伴います。自らの技術が今後社会の中でどう位置づけられるのか、時間と空間の双方から俯瞰できる人間であり技術者であることが今後ますます求められて

そうあらなくてはならない。大学の中で変化を生じさせるメカニズムをどのように維持していくのか、そのことが今問われていると思います。そして我々教職員は、学生が置かれてきた環境をイメージする「想像力」と彼らの発する言葉や態度の意味を受け取る「感受性」を持っているのか。彼らにそのような資質を身に付けさせる前に、自らを振り返る必要があると思います。大学が置かれている状況の責任を外部に求めるのか、内部に求めるのか。現実を自ら受け止め、その上で我々は、学生たちに何を語り、生き様として何を示せるのか。その姿勢をぶれない軸としつつ、本学に真に必要な改革を自ら見定め、自ら判断し、「内発的な大学改革」を進めることに方途を尽くす。社会がこれからの大学に求めている本質は、ここにあると確信しています。

これからも、生涯にわたっての「学び方」を身に付ける場として、価値ある、選ばれる、社会に貢献する大学であり続けるために、教職員一同、全力を挙げて取り組んでいく所存であります。

結びにあたり、本日ご参会の皆様をはじめ、本学の永きにわたる歴史を築き、支えてくださった全ての皆様に感謝申し上げますとともに、さらなるご指導・ご鞭撻を賜るようお願い申し上げます、日本工業大学設立50周年記念式典の挨拶といたします。

平成30年6月10日

日本工業大学 学長 成田 健一



教育の新たな拠点となる多目的講義棟
(完成イメージ／2018年12月竣工予定)